

まち運営会議（第 69 回）議事録（概要）

平成 27 年 9 月 24 日 18:30～20:30、 自由が丘会館 3F

議長 卯月盛夫

報告事項

① 国家戦略特区の現状について 自由が丘における目黒区の取組の現状

（目黒区地区整備事業課長）

資料・第 4 回東京圏国家戦略特別区域会議 東京都提出資料（目黒区地区整備事業課）
・国家戦略特別区域法の概要（内閣府地域活性化推進室）

② その他

●渡辺代表 本日は夕方から雨になりましたが、第 69 回のまち運営会議へのご出席お礼申し上げます。昨日は彼岸の中日、このところ涼しくなってきました。これからはだんだん夜が長くなります。今年は台風の当たり年のようで鬼怒川流域をはじめ全国各地で大きな被害を受けました。この 20 日には、自衛隊の海外行使を可能にする安保法制が成立しましたが、歴史の中で大きな汚点にならないかよいと思います。まち運営会議は今回から任期 2 年の新しい委員で出発します。よろしく願いいたします。卯月先生にはお忙しい中をありがとうございます。

●議長 69 回目を迎え、2 年の節目になりますが、新たな気持ちで対応したいと思います。早速今日の議題に入ります。

●課長 国家戦略特区とは、法律による規制を内閣総理大臣が特例を認めることで、国際交流や経済活動を行いやすくするための制度です。具体的には、地元の自治体や企業が内閣府に提案をして、これが認められれば法律の緩和ができるようになります。

目黒区は去年の 9 月にこれまでの実績を踏まえ、中目黒と自由が丘の二つの地域がオープンカフェ等を実施することで国際的に地域の魅力を発信できるとして手を挙げました。

国家戦略特区のメニューはいろいろありますが「エリアマネージメントの民間開放」のうち「道路の占用基準の緩和」が自由が丘に対応します。これまでイベントごとに道路を使用する場合は警察に占用許可をとる必要がありましたが、道路空間の利用による都市の魅力向上ということで、基準を緩和し使いやすくしてオープンカフェにより賑わいを創出し収益を得る、この収益を活用し、地元が清掃、美化、歩行者の安全や自転車の安全走行につなげる取組等のまちづくりを進める。それによってまちが良くなってさらに人を呼ぶ、国内・国外にアピールするという位置づけになります。目黒区以外でもいくつかの地域でオープンカフェを計画しています。例えば、道路法特例を活用した賑わい創出につながるイベントの展開として国が 6 月に認めているものが、大丸有地区（丸の内仲通り）、新宿副都心街路（都庁前）、大崎駅周辺街路（夢さん橋）、蒲田駅周辺街路（さかさ川通り）があり、この 4 地区はいずれも企業、商店街等の連携のもと、道路空間等を活用しています。

自由が丘地域は道路が狭く車道と歩道を明確に区別できる場所は駅前広場のみであり、常設で考えるのであれば駅前広場以外にはありません。特区制度では、イベント時に地元が駅前広場や適用区域に何かを作ったり、イス・テーブルを設置することで地元の人だけでなく、国際的な企業人やその家族にも便益を与えて国際的にも自由が丘の魅力をアピールできればと考えています。

特区における実施主体はこれまでさまざまなイベントの実施経験のある商店街振興組合が担当し、都市再生整備推進法人になる予定のジェイ・スピリットが組織・体制を整え経験を積み重ねて、

新たなイベントを企画運営する能力を持った段階で特区担当にもなるだろうと思います。いずれにしても目黒区は自由が丘と協力・連携を深めてまちづくりを進めていきたいと思っています。

その他の特区制度活用として「容積率・用途等土地利用規制の見直し」に含まれる都市計画法のワンストップ特例があり、虎の門地区における国際ビジネス拠点機能の強化と、大手町・丸の内・有楽町地区における MICE※機能の強化があります。いずれも国際ビジネス拠点や国際交流のためのバスや地下鉄の交通ネットワーク及び宿泊を含む施設づくりがスピーディーに整備できることを目指しています（※MICE：Meeting, Incentive travel 企業研修旅行, Convention 国際会議, Exhibition/Event）。

●議長 特区の活用はこれから自由が丘がまちづくりを進めていく一つの手法だと思いますが、質問、ご意見をいただきたいと思っています。

●自由が丘の特区の内容としてなぜオープンカフェなのか。

●課長 道路を使ってオープンカフェを実施し、賑わいを創出するとともに収益を上げて、これをまちづくりに利用するということ進めていければと考えている。

●代表 自由が丘でこれまでやってきた全てのイベントはまちづくりに非常に貢献している。また収益もあがっているの、これらを丸ごと特区のメニューに入れてしまおうということです。

●お話は分かるが、自由が丘でこれからどう進めるか、まちの人のいろんな意見を聞きながら大きなビジョンをもって進めてもらいたい。オープンカフェがひとり走っているようにも感じる。

●代表 オープンカフェは公共道路を使って収益をあげてそれをまちづくりに活かそうという手っ取り早い取組、国の示した例題のようなものであるが、自由が丘では他のこともできるかもしれない。特に若い人たちが今、街づくりをすごくがんばっているの、一緒に進めていきたい。

●議長 特区の内容はいつごろ決まり、いつごろから実施されるのか。

●課長 目黒区は自由が丘をオープンカフェ等の内容で特区にしたいと東京都と協議しているが、国に申請して決まるのは早ければ今年中である。今年中に認定されれば、来年5月のスイーツフェスタを特区事業の第1弾として行うことになると考えている。特区として決まった段階でみなさんに伝え、国家戦略特区としてのイベントをどういうものにするか決めていきたい。

●駅前広場が新しくなった時に、オープンカフェをしようという話があったと思うが、その時はそれをする人や業者を見つけるのが難しかった。また、現在行われているイベント時にオープンカフェができるかという、駅前広場はとて多くの人出があるので難しいのではないかと思うがどうか。

●課長 オープンカフェを実施するに当たり、どこの事業者がどういう形で行うか、などは認定された後に、みなさんと話し合いをしながら決めていきたい。

●代表 道路を使うということでは、オープンカフェだけでなくオープンバザールも考えられる。これまで南口商店街のイベントでワゴンセールをして1台2万円の出店料で70から80台が出ている。それによって約150万円の収益が出る。それをまちづくりに活かしたらどうだろうか。

●特区になると今まで以上にオープンカフェができるのか、毎週末に常設のお店を誘致することができるようになるのか。

●課長 お店の道路上の常設については駅前広場でもスペース的に難しい。特区では常設でなくイベント時のみということになる。

●議長 私は蒲田の特区的设计に初めから関わりこれからも私の研究室はイベントの企画等をしていくが、地元の人たちが「これは国が認めてくれたもの」として自信が出てきたと思う。蒲田は

羽田に来た外国人を引っ張ってこようという目標があるので、キッチンカーでいろんな食事を用意している。

特区は規制緩和だけで予算はつかないが、やる気のある自治体が国際的にアピールするにはよいと思う。蒲田は火曜と木曜日にキッチンカーを呼んで、道路上にたくさんのベンチを置いている。2年間やってきたが昼時はオフィスの人たちでもものすごい賑わいを見せていて、通りの2階にも飲食店が入るようになり、空き店舗だった所にコンビニが入って、まちには徐々に賑わいが出てきた。地元がしたたかな戦略をもてば、特区はうまく利用できる手法だと思う。

特区では広告についても規制が緩和される。この広告が大変な収入になっている例もある。自由が丘の駅前広場が改修された時に、小さな案内所を作れないかと検討したことがある。案内所で収入を得るのは難しいが、その内容や作り方等を検討してみる価値はあると思う。

●特区に認定される範囲はどこか、特にどの道路が使えるようになるのか。また、九品仏川緑道は世田谷区に隣接しているが、世田谷区との連携はどうなっているのか。

●課長 自由が丘ではこの道路を使うと設定して提案しなければならない。(都計道127号の一部、46号の一部、マリークレール通りが候補である。)緑道は魅力的なので使えるようになればよいと考えているが、それには世田谷区との協議連携が必要になる。

●議長 蒲田のさかさ川通りも「そこだけか」という意見もあって、周辺の通りも少し入れている。

●使えるのは区道だけで、狭い道は防災とか不審者が出た時の防犯の観点でふさわしくないと思う。緑道自身は公園で、道路としては使えないと思うがどうか。

●課長 緑道の両側の側道を考えているが、世田谷区との協議連携が必要になると考えている。

●代表さんに質問します。先ほど南口でワゴンセールをして約150万の収益を得ていると言われたが、それは南口商店街の収入であり、それを特区の実施主体者の商店街振興組合の収入にしてまちづくりに活かすというのはどうか。

●代表 今はこんな取組でこんな収益がでているという例としてお話した。

●自由が丘では国際性ということが方針として強調されていると思うが、そこに至るまでにどういうやりとりがあったか。

●課長 都や国との協議の中で、オリンピックやパラリンピックに向けて、さらに国内外の人に向けて国際性の必要性についての提案があった。そこでオープンカフェを国際化につなげるにはイベントと連携する必要があると考えた。

イベントの内容はこれから自由が丘の方と話し合っていくが、例えばオリンピック・パラリンピックに関しては、オリンピック・パラリンピアンを呼んで話をしてもらうことも考えられる。また自由が丘地区は日仏協会ともこれまで関係があるので、それを前面に出して対応することも考えられる。

●国際性に関して、各お店のおもてなしも大事で、それがまちのアピールになってくると思う。

●代表 まちやイベントのイメージも大事だ。自由が丘がニューヨーク市と交流していた時代もあったので、女神まつりでは駅前ではジャズを中心としている。南口の場合は南フランスのエクサンプロヴァンスとの交流があったので、イメージとしてマリークレールという名前を付けて、シャンソンとワインの世界を目玉としている。個々のイベントがこういう方向でやっていけば、国際性も徐々に浸透すると思う。イベントの歩みもまちの歩みも特区に活かせればよい。まちづくりには長い年月と大変な労力が要するというを感じている。

●国際性は、収益をどのように使うかという面からも考えてみたらどうか。例えば外国人向けに地

図を作る。その中にバリアフリー、外国人でも使いやすいトイレや授乳室の場所、この外国語が使えるといった店等を載せるのは国際性を高めることにならないか。

●課長 十分になる。取組を進めていく中で、こうしたらどうかというような提案がたくさん出てくると思う。そうしたものをまちづくりに活かしてもらいたい。それが一番のねらいでもある。

●議長 これからの計画づくりはどうなるのか。区は地元と話し合いながらしていくのか。どういう体制でやるのか。

●代表 これまで自由が丘でしてきたことを活かしていくというのが基本になる。当面はその内容を振興組合で支部長を集めて理解してもらいながら調整していくことになるだろう。ジェイ・スピリットは都市再生整備推進法人として別の形で公共空間の利用を考えていくことになる。新たな駅前広場でのオープンカフェでは企業を呼ぶことも考えられる。大企業の知恵も借りたい。

●まちづくりの議論はオープンにして、いろいろの人の意見が検討されるように進めて欲しい。

●議長 今日はみなさんに、自由が丘では目黒区と連携して、商店街振興組合が主体となって国家戦略特区でこんなことをする、ジェイ・スピリットは都市再生整備推進法人となって少し別の観点からまちづくりをしていくということを理解してもらい、今後も協力していただきたいということで終わりたいと思います。ありがとうございました。

以上

*この後、まち運営会議委員に委嘱状の渡しがあった。